

「見せる」「見える」、選ばれる大学

～大学における CS 向上～

B-1 グループ(チーム名：Project8)

1. 背景と目的

テーマを設定するにあたり、私たち Project8 は各大学で問題とされていることについて話し合った。その結果、大学生活に関する学生自身の不安に加え、保護者と学生の関係の希薄化による、家族間での相談機会の減少と、それによって保護者が子供の大学生活に対して“卒業できるのか”、“大学にちゃんと通学しているのか”等の大学の教育について不安を抱えていることが挙げられた。そこで、これらの不安を解消することにより、大学に対する満足度を向上させ、選ばれる大学へと成長することを目的とした。

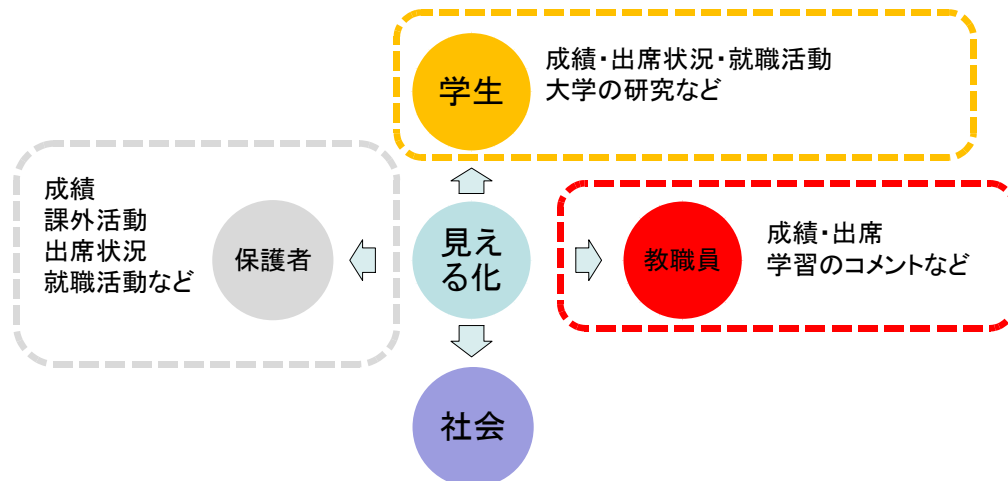
2. 討議内容

どのような取り組みを行うことで、学生や保護者の満足度をあげることができるのか検討を行った。具体的な方法の提案として、①大学の“見える化”、②キャリア形成のサポート、③教育や学習環境の充実、④卒業後のフォローアップが挙げられた。

本発表では、「成績表」および「学生カルテ」の作成によって、学生、保護者、教職員、社会のニーズに応える“見える化”＝大学の可視化に焦点をあて、検討を行った。

3. “見える化”による大学の可視化

教職員・学生・保護者に「学生カルテ」として見せる・見える情報を下図に示す。



3-1. 教職員による“見える化”情報の共有, 活用

“見える化”を行うにあたり、教員の持つ学生の「成績」、「出席状況」に関する情報、職員の持つ学生の「課外活動」、「就職活動」に関する情報を共有することで教職協働の取り組みを行い、「成績表」と「学生カルテ」を用いて学生と保護者に対して多面的なサポートを提供するものとする。

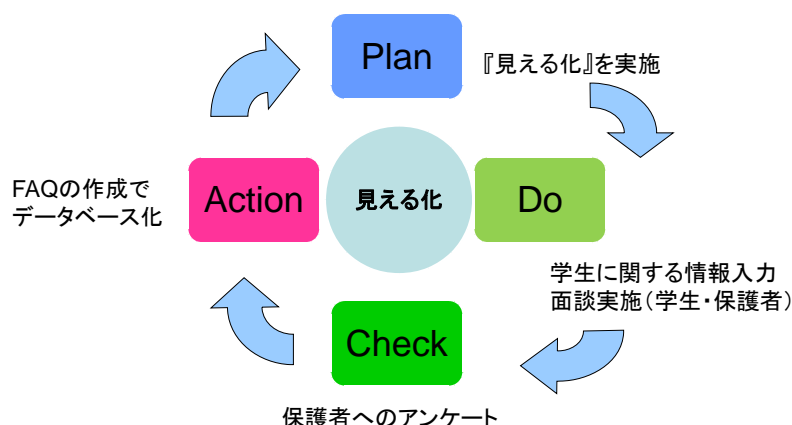
3-2. 学生に焦点をあてた“見える化”

「成績表」に加え、学生カルテとして「出席状況」、「課外活動」、「就職活動」「教員、職員による学習のコメント」の 5 つを学生に公表する。成績表公開・配付時にこれらの情報を踏まえ、学生が今後の学習計画を作成し、それを用いて教員(担任やゼミ担当)との個別面談を半期ごとに行う。これらのデータを学生の個人ページとして記録し、教員との個別相談に継続して使用する。

今後の計画の作成によって学生生活の振り返りを行うことでの社会人基礎力の向上、文章作成能力の向上を目的とする。

3-3. 保護者に焦点をあてた“見える化”

保護者は「成績表」、学生カルテとして「出席状況」、「課外活動」、「就職活動」、「教員、職員による学習のコメント」、そして「学生が教員との面談により作成した今後の計画」の 6 つについて、郵送された紙媒体またはウェブで確認する。確認・配付方法等については入学ガイダンス時に確認を行う。なお、「成績表」「学生カルテ」の内容に疑問や不安がある場合は、教職員や、このシステムを経験した OB が対応にあたる後援会での相談や個別面談に参加することで、不安を解消することができる。これらの取り組みとともに、学生カルテに関するアンケートの回答と保護者の疑問点をまとめた FAQ を作成、データベース化を行う。



4. まとめ

本発表では大学の“見える化”をテーマに、上図に示す PDCA サイクルを用いた継続的な問題検証と改善策を提案した。大学の“見える化”による大学教育への不安解消で学生と保護者を満足させるだけでなく、家族との絆を再確認するきっかけを提供することができる大学へと成長すること。これは現代の社会の流れの中で、選ばれる大学の理想像のひとつではないかと考える。